

授業者を傷つけない、参加者全員がヒントを得て帰る「振り返り会」の方法です

目的

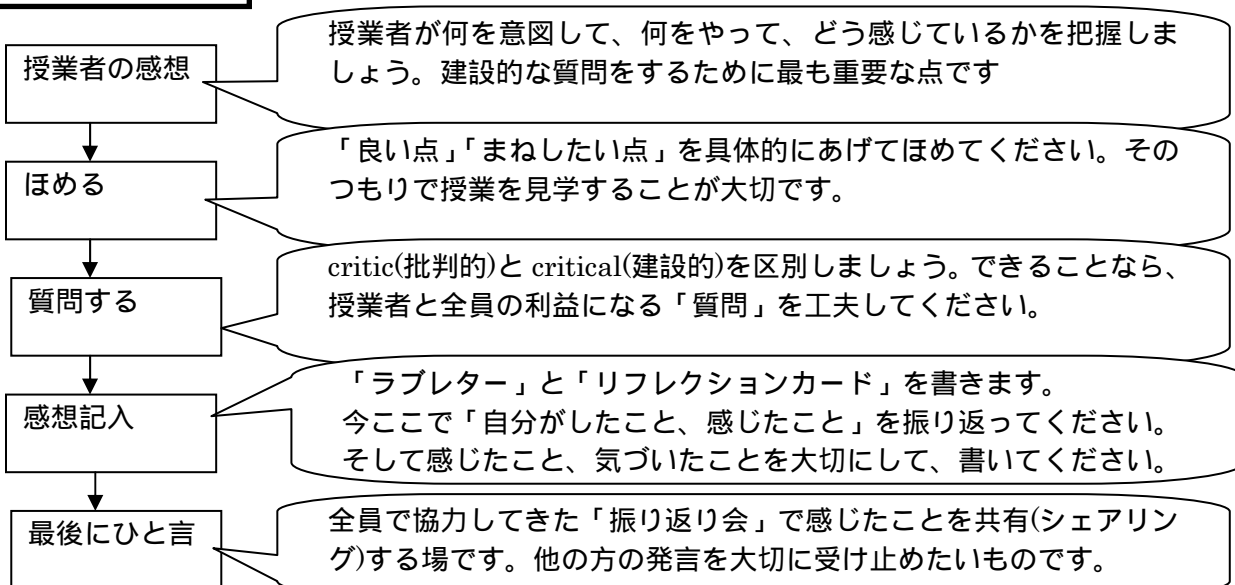
- 1 参加者全員が「自分の授業の改善のヒント」を得る。
- 2 授業者が「授業をやって良かった」と感じるようにする。
- 3 メンバーが「次は自分が研究授業をやりたい」と感じるようにする。

特徴

- 1 指導助言者がいない。(全員平等、対等が原則です)
- 2 教科・科目を超えて行う。(他教科の授業は大きなヒントになります)
- 3 進行役が進行し必要な介入をする。(進行についての権限を持っています)
- 4 意見の対立・対決がない。
(安全・安心の場が「気づき」(リフレクション)を生みます)
- 5 メンバーが「ほめる」活動があります。(他者の良い点を見つけるトレーニングです)
- 6 「建設的(critical)な質問」が最も重要です。
(リフレクションを促す良い質問が出来る力は「授業力」の1つです)
- 7 「ラブレター」を授業者に書いて渡します。
(言えなかった意見、アドバイスや情報提供はここで伝えます)
- 8 「リフレクション&アクションカード」を書きます。
(自分のリフレクションを意識化・定着化を狙っています。更に事後に共有できるように、まとめの資料を配付します。カードも返却します)

進行手順概略

メンバーの心構え



「振り返り会」の進行手順

1. 目的・目標

- (1)出席者が「授業見学」「振り返り会」を通して、自分自身の授業に対する新しい「気づき」と「新たな行動意欲」を得ること。
- (2)授業者が「研究授業をやった良かった」「次も研究授業をやりたい」と感じる事。
- (3)出席者が授業者をやりたくなるようになること。

2. 進行手順

時刻	進行役の動き / 授業者の動き	メンバーの動き	備考
00	<p>「最初に、授業者が自分の授業の以下の点について発言してください」(3分間)</p> <p>良くてきたと感じている所。 もっと改善したいと思っているところ。 この会で改善のヒントやアイデアを得たい点。</p> <p>「では、メンバーから、授業者の授業を見て、良かった点、自分もやってみようと思った点、について発言してください」</p>	<p>黙って聴く</p> <p>要するに「ほめる」ことです。各自、2～3を箇条書き風に発言する。1人の発言時間は2分以内。順番に。全員。</p>	<p>全員が授業を見ていることが前提。 「授業者を傷つけない」が根本原則です！</p> <p>前もって何を言うかを考えておいてください。</p>
10	<p>「次に、建設的な(critical)質問、授業者にとって利益になるような質問、気づきをうながすような質問をしてください」 「授業者は質問されたことだけにコンパクトに答えてください」</p>	<p>発言は自由。発言順は不同。コンパクトな質問をする。</p>	<p>質問の形を借りた「批判」「意見」「誘導」は禁止。 必要に応じて進行役が介入します。</p>
25	<p>「「ラブレター」を書いてください。意見やアドバイス、情報提供など何を書いても良いですが、「授業者に 愛と勇気を伝える 精神で書いてください」(5分間) (時間に余裕があれば「リフレクション&アクションカード」も記入する)。(5分間)</p> <p>書き終えた「ラブレター」は直接授業者に手渡す。</p>	<p>できるだけ「授業者に直接手渡す」ようにしてください。 「リフレクション&アクションカード」には、これまでのプロセスで「気づいたこと」「やろうと思ったこと」を箇条書きにする。</p>	<p>カードに書いていただいたことは本日のまとめの資料に氏名を伏せて掲載予定です。「掲載不可」の箇所は明示してください。</p>
35	<p>「最後に最後のひと言ずつ発言してください」メンバーからひと言ずつ 最後に授業者がひと言 進行役から謝辞。</p>	<p>最後のひと言は「気づいたこと」「やろうと思ったこと」「この会の感想」など。</p>	
45			<p>時間内に「リフレクション&アクションカード」がかけなかった場合は終了後に記入してもらおう。時間が足りなかった場合は、「ラブレターの手渡し」も終了後に行う。</p>

出典・引用 「大切な友だち critical friend」と呼ばれている技法をアレンジしました。

「効果 10 倍の 学び の技法」(吉田新一郎 / PHP 新書)等の吉田氏の著作を参考にしました。